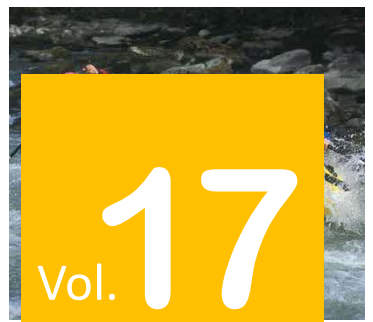


道内各地で進展する地方創生プロジェクトの最前線をクローズアップ！



北海道創生ジャーナル

創る



Vol. 17

2021.10

その先の、道へ。北海道
Hokkaido.Expanding Horizons.



Ido!



Hokkaido x Work x Vacation



CONTENTS

特集 01 つながる。感じる。生まれる。 北海道型ワーケーション！

共同実施地域紹介 / 帯広市、登別市、江差町、浦河町

地域が動く・プロジェクト最前線

“やっかいもの”を地域活性化の資源に

07 地域をめぐるバイオガスエネルギー（上士幌町）

～エネルギー地産地消のまちづくり～

09 エゾシカと共存するむらづくり（西興部村）

～地域資源としてのエゾシカ～





WORK
+
VACATION

「ワーケーション」は、Work（仕事）とVacation（休暇）を組み合わせた造語で、「テレワーク等を活用し、リゾート地や温泉地、国立公園等、普段の職場とは異なる場所で余暇を楽しみつつ仕事を行うこと」（観光庁『新たな旅のスタイル』より引用）です。ワーケーションの実施形態はさまざまですが、休暇主体のものや業務主体のものなどがあり、道では下表のとおり分類しています。

ワーケーション実施形態の道における主な類型

主に休暇	福利厚生型	有給休暇を活用してリゾートや観光地等でテレワークを行う
主に業務	地域課題解決型	地域関係者との交流を通じて、地域課題の解決策を共に考える
	アイデア創出型	発想や視野の拡大を目的に非日常環境で業務を実施
	合宿型	チームビルディング等を目的に、場所を変えて職場のメンバーと議論を交わす
その他	サテライトオフィス型	BCP対策にも資するサテライトオフィスやシェアオフィスでの勤務
	自営・フリー型	自らの判断で時間と場所を選ばず業務と休暇を楽しむ
	ブレッジャー	出張先等で滞在を延長するなどして余暇を楽しむ
	ボランティアワーク型	個人がボランティアなど地域活動と併せて休暇を楽しむ



さまざまな種類があるワーケーション

ワーケーションとは

道では、北海道の有するポテンシャルなどを活かし、個人・企業のあらゆるニーズに対応する「北海道型ワーケーション」の推進に、道内市町村と共同で取り組んでいます。今回は、その概要についてご紹介します。

なぜ今ワーケーション？

ワーケーションは、ワーク・ライフ・バランスの観点や、コロナ禍におけるテレワークの進展を受け「新たな働き方」として注目されています。地域にとっては、ワーケーション受入が

関係人口の創出・拡大、ひいては移住・定住や企業誘致へとつながることから、全国的に取組が増加しており、国による支援制度の創設・拡充やワーケーション自治体協議会（WAJ）の設立など、活発な動きが見られます。

北海道型ワーケーション！

つながる。感じる。生まれる。

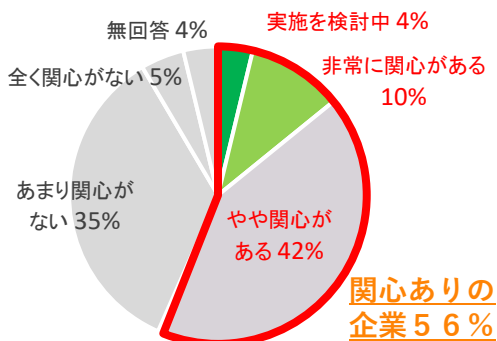
道においても、急速な人口減少が進む中、本道にゆかりのある方々はもとより、北海道を愛し、応援してくださる方々の力を関係人口として取り込むことを目指しており、首都圏等から本道への新たな人の流れをつくるため、令和元年度から市町村と連携しワーケーション推進の取組を行っています。

これまでの取組

令和元年度は実証事業として、首都圏企業等9社の社員を対象に、休暇を兼ねて道内各地でテレワークを行う広域周遊型ワーケーションを16市町と共同で実施しました。

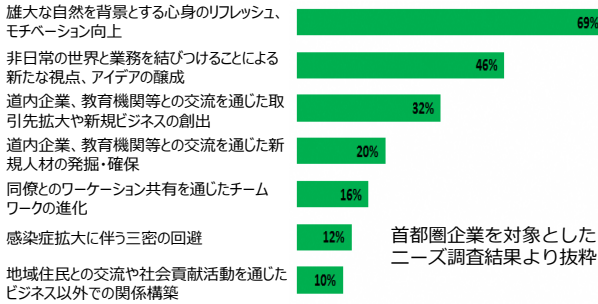
令和2年度には39市町村と連携し、北海道ならではの魅力あるワーケーションプランの作成、受入体制の構築や首都圏企業へのニーズ調査及びPR等により、ワーケーションの道内市町村への普及・展開を実施しました。

<北海道でのワーケーションの関心>



首都圏企業を対象としたニーズ調査結果より抜粋（北海道、令和2年度）

＜北海道でのワーケーションへの期待＞



豊かな自然環境 サテライトオフィス開設企業数日本一 12年連続魅力度全国一位 道内市町村の6割強が受入に意欲 魅力溢れる食や観光

北海道は、豊かな自然環境や食・観光の魅力に加え、サテライトオフィス開設企業数日本一などワーケーション受入の素地が整っています。また二重調査からは、北海道でのワーケーションに関心のある首都圏企業が半数を超える56%にのぼり、特に北海道らしい雄大な自然を背景とする心身のリフレッシュ、モチベーション向上への期待が69%と高いことが分かります。

さらに、多様な特色を持つ179市町村による、個人・企業の幅広いニーズに応じるワーケーションの提供が可能であり、こうした北海道の強みを活かしたワーケーション推進に今年度も引き続き取り組んでいます。

本道ならではの魅力

令和3年度の取組

① **道内・首都圏企業等とのマッチング**
北海道のワーケーション窓口として、道内企業や首都圏企業等の誘致及び市町村とのマッチングや企業ニーズを踏まえたワーケーションプランのコーディネートを実施しています。

② **企業等へのPR・相談対応**
市町村が提供する体験プログラムや各種施設、自然環境等の情報を「北海道型ワーケーションポータルサイト」において一元的に情報発信し、マッチングを促進すると共に、相談対応を実施しています。

③ **オール北海道による推進**
道と共同でワーケーション事業を実施する意向を持った62市町村（9月現在）とは「受入検討会議」を、関係企業・団体とは「推進協議会※」を構成し、共同プロモーション等を展開しています。

④ **道内への普及・展開**
関係人口の創出・拡大に資する北海道型ワーケーションの取組を全道に普及・展開させるべく、道内全市町村を対象とした「普及推進会議」を開催します。

今年度は、北海道型ワーケーションのロゴ及びキャッチフレーズ「つながる。感じる。生まれる。」を定め、次の取組を実施していきます。



市町村

- ニーズに応じた受入
- ワーケーションプランの磨き上げ
- 共同プロモーションの実施など

企業・団体

- 既存事業と連携した取組の展開
- 共同プロモーションの調整・実施
- 各関係者による積極的な試行など

北海道

- 関係者連携の取組の調整
- ワンストップ窓口（マッチング・相談対応など）
- 関係各部署での事業展開など

※北海道型ワーケーション推進協議会構成員
北海道経済連合会、（一社）日本旅行業協会北海道支部、（一社）北海道移住交流促進協議会、（公社）北海道観光振興機構、北海道地区レンタカー協会連合会、北海道エアポート（株）、北海道
＜オペレーター＞北海道経済産業局、北海道運輸局

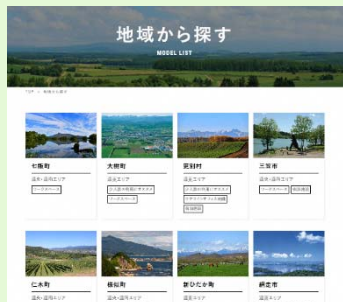
今後に向けて

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、首都圏等で予定していたプロモーション活動や、道内市町村における実証事業・受入も取り止めが相次いでいる状況ですが、「ワーケーション」といえば「北海道」と広く認知されるよう、引き続き関係者間で連携し、北海道型ワーケーションの普及・展開を進めていきます。

次ページからは、道と共同実施している地域の中から4市町村の取組を紹介いたします。



公式SNSではポータルサイトと連動し、体験記などを発信しています



ポータルサイト



Instagram



Facebook



▼ **特徴**
利用者は自分好みのワーケーションを探し、サイト上から実施に向けた相談・申込みが可能です。相談・申込みには道と市町村が連携して対応していきます。

▼ **掲載内容**
共同実施市町村の情報（キーパーソン、体験プログラム、ワーク施設・宿泊施設等）
モデルプラン
インセンティブ情報
イベント情報
ワーケーション体験記等

ワンストップ窓口
北海道型ワーケーション
ポータルサイト



共同実施地域の紹介

おびひろし

帯広市

雄大な自然や豊かな食を
活かしたワーケーションを推進

DATA

【人口】
165,317人（令和3年7月現在）

【問い合わせ先】
観光交流課／商業労働課
TEL:0155-65-4169
0155-65-4164

【関連WEBサイト】
北海道型ワーケーション
ポータルサイト(帯広市)

QRコード読取▶

▼帯広市のワーケーション

帯広市は、都市と自然が調和したまちで、郊外・街なかそれぞれの魅力を活かしたワーケーションを推進しています。

▼取組の特色

平成28年7月に㈱スノーピークと観光振興を柱とした包括連携協定を結び、平成29年4月に同社と帯広市及び地元金融機関等の出資により株式会社を設立、のちにDMOとして、雄大な自然や豊かな食を活かした、癒しやゆとりの中で新しい発想を生み出すことができるアウトドアミーティングやビジネスキャンプなどを展開しています。こうした取組により、これまでに首都圏を中心とした企業や学習塾が利用しています。

街なかでは、昨年11月に十勝シティデザイン(株)・第一生命保険(株)・帯広市の3者で「関係人口創出・拡大に向けた協定」を締結し、今年4月に地域に開かれた「 coworkingスペース」と「地域の観光・暮らしに関する情報

発信スペース」を市内中心部に開業しました。この施設を活用し、ワーケーションを行う首都圏企業の掘り起こしにつなげていきたいと考えています。

▼首都圏企業へのプロモーション

「十勝・帯広リゾベーション協議会」の会員企業が関係性を有する企業に対して1対1のプロモーション活動を行うことなどを内容とする事業を協議会に委託しています。協議会では、通常のワーケーションに加え、十勝・帯広の地域資源を新しい視点で捉え、新規事業を興す「リゾベーション(リゾト+ワーケーション+イノベーション)」の考えにより、首都圏企業の呼び込みを目指しています。

- 【十勝・帯広リゾベーション協議会会員】
- 十勝シティデザイン(株)、KPMGモビリティ研究所、十勝バス(株)、ANAホールディングス(株)、ANAX(株)、(一社)大丸有環境共生型まちづくり推進協会、(二重地所)、(株)電通、シヨルタン(株)、(株)シヨルテ



リゾベーション協議会のモデル体験ツアー

取組を通じて

ビジネスキャンプ等では、アウトドアサウナやアイヌ舞踊などコンテンツの充実も図っており、リピーターの獲得にもつながっています。

協議会は帯広市からの委託事業以外の取組も進め、内閣府から令和3年度の関係人口創出に関するモデル事業に採択されたほか、地元出版社が作成した雑誌「スロウ」に特集されるなど、リゾベーションによる地域分散型社会の実現に向けた官民を挙げた挑戦が注目されています。



ビジネスキャンプでのアイヌ文化体験

▼今後の取組の方向性

新型コロナウイルスの感染拡大を契機としたテレワークの急速な普及により、「地方で働き、暮らす」という東京一極集中是正に向けた流れが芽生えつつあります。市としてはこの流れをとらえ、首都圏企業(関係人口)へのプロモーション活動を継続するなど地域でのイノベーションを促し、持続可能な地域社会のモデルとなる取組にまで深化させたいと考えています。



カルルス温泉開湯100年



カルルス温泉でのワークショップ



登別地獄谷



地獄の谷の鬼花火



日本工学院北海道専門学校でのワークショップ



日本工学院北海道専門学校内のワークスペース

共同実施地域の紹介

のぼりべつし

登別市

温泉と研修を組み合わせた「湯治型ワーケーション」を推進

2

DATA

【人口】
46,375人（令和3年7月現在）

【問い合わせ先】
総務部企画調整グループ
TEL: 0143-85-1122

【関連WEBサイト】
北海道型ワーケーション
ポータルサイト(登別市)

QRコード読取▶

▼登別市のワーケーション

登別市は日本を代表する温泉地で、国内外から年間約400万人の観光客が訪れます。登別温泉は9種類もの温泉が湧き出す「温泉のデパート」と呼ばれ、カルルス温泉は北海道で第1号の「国民保養温泉地」に指定されるなど、湯治場として有名です。

温泉地としての高い知名度に加え、テーマパーク等のアクティビティや体験プログラムメニューのコンテンツを数多く有し、新千歳空港からのアクセスも良いことから、新たな層の誘客促進及び関係人口の創出を図ることを目的に令和3年1月からワーケーションの取組を始めました。

▼令和3年度の取組

今年度は内閣府の地方創生テレワーク交付金を活用し、市内にある日本工学院北海道専門学校にワークスペース等を整備しています。これにより産官学が共同した研修や人的交流の場の提供が可能となります。

6月には、有識者や道内外の企業向けのモニターツアーを同校で初めて実施しました。講演会・ワークショップでは、地元からも同校の学生・先生のほか、市議会議員、商工会議所青年部、登別室蘭青年会議所、登別国際観光コンベンション協会の方など31名が参加し、有意義な意見交換が行われました。

▼取組の特色

温泉は、心身の故障やストレスを緩和する効果が期待できることから温泉を最大限に活かしながら、学生を巻き込んだマネジメント教育などのユニークな研修を組み合わせる「湯治型ワーケーション」の可能性を探り、企業のワーケーションを中心に受入の検討をしています。

▼今後の取組の方向性

登別市の特色を活かしたワーケーションの幅広い可能性を探るため、家族連れ・職場・個人のそれぞれを対象とした3つのパターン「福利厚生・ファミリー型」「研修・チームビルディング型」「ノマド・プレジャー型」のモニターツアーを企画し体験してもらいます。

特に温泉を活かしたワーケーションの推進に向け、有識者等の意見を参考にしながら、企業の皆様が登別市に社員を送り出したくなるプログラムを提供するとともに、持続可能なワーケーションとなるよう取組を進めていきます。

モニターツアーの内容

モニターツアーは、3泊4日の日程で湯治による長期逗留の素地があるカルルス温泉を中心に実施し、倶多楽湖でのナイトクルーズの体験や温泉の宿泊施設関係者を招いて対話型ワークショップを行いました。最終日は、日本工学院北海道専門学校を会場に「登別市におけるワーケーションの可能性」や「地域一丸となったワーケーション・企業誘致」などに関するワークショップを開催しました。

参加者の声

カルルス温泉は泉質がよく静かな環境で癒された。

ワークショップで地元の方と交流でき、観光だと知ることでできない登別市を知れて楽しかった。

日本工学院北海道専門学校でのワークショップ



海洋体験（海釣り）

マリピンクでのBBQ



マリンカイト体験

共同実施地域の紹介

え さしちよう

江差町

海のアクティビティを満喫できる
ワーケーションを推進

DATA

【人口】
7,190人（令和3年7月現在）

【問い合わせ先】
まちづくり推進課 広報統計係
TEL: 0139-52-6712

【関連WEBサイト】
北海道型ワーケーション
ポータルサイト(江差町)

QRコード読取▶



市街地と陸続きでつながるかもめ島

グランピングやキャンプ体験など自然を肌で感じられる個人及び家族向けワーケーションプランのメニュー化を目指しています。

▼江差町のワーケーション
江差町は日本海に面した漁業・農業が盛んな檜山管内の中心的な町です。町が誇る自然環境や歴史文化を活かしたワーケーションプランの構築に取り組んでいます。

▼取組のきっかけ
コロナ禍の影響により、観光客など町外からの受け入れ機会が減少している中、新たな関係人口の創出・拡大の糸口としてワーケーションに取り組みこととし、令和2年6月から北海道型ワーケーション事業へ参画しました。

コロナ禍でアウトドアアクティビティの人気が高まっていることを受け、町のシンボル「かもめ島」を活かし、



マリピンクテント内部



カニ釣り体験

「マリピンク」と「グランピング（豪華なキャンプ）」を合わせた造語「マリピンク」をキャッチフレーズに、町内の観光名所である「かもめ島」で、宿泊や食事、海洋体験など、海の魅力を存分に味わえるプランを用意しています。かもめ島の上にあるテントに泊まりながら、環境を活かしたガイドウォークや凧揚げ、海釣りなどができる、島ならではの海洋体験メニューを揃えています。

▼整備にあたって
かもめ島を海洋体験や海洋教育の拠点とすることを目指し、日本財団海と日本PROJECTの一環として実施しています。テントの中からでも海を一望できるドーム型のマリピンクテントやウッドデッキ、水回りの設備等の施設整備のほか、海を学び体験できるプログラムを新設しました。

（マリアドベンチャーウォーク、マリンカイト、海釣り、カニ釣り）



かもめ島
マリピンク

▼今後の取組の方向性
現状、サテライトオフィスなどリモートワーク環境が整った施設が町内において不足しているため、テレワークなどに対応可能な施設や設備の整備検討を行いたいと考えています。

マリピンクについては現在観光客向けの1泊のみのプランを用意していますが、ワーケーションに対応した長期滞在向けの連泊プランの新設も検討しています。

また、首都圏から見ると檜山地域の知名度は道内の他地域と比較しても低い状況であり、単独で誘致・宣伝しても効果は見込めないことから、檜山振興局や管内市町村と連携して「オーラル檜山」での足並み揃えた取組が必要だと考えています。

▼モデルプランの策定
北海道型ワーケーション事業の一環として、近接する函館市・今金町・江差町の3市町によるモデルプランを作成しました。4泊5日で3市町を周遊するプランで、江差町ではポケットWiFiを貸与し、宿泊施設や公共施設等でリモートワークをしつつ、かもめ島を中心とした海洋体験をしてもらうメニューを設定しました。令和3年8月開始で、取組を始めて間もないことや感染症対策による移動制限などもあり、まだ受入実績はありませんが、このモデルプランのPRを図っていきます。